

# 令和7年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 1

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和7年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	--

〈知 育〉 ○ 主体的に学び確かな学力を身に付けた児童の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価※( )はR6		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
知    育	<b>1 授業の充実</b> 「 <b>基礎学力(音読・計算)の向上</b> 」 「 <b>ICT有効活用</b> 」 「 <b>表現力育成</b> 」	○「学びたい度」…70% ①学校に行くのは楽しいか。 ②将来の夢や希望はあるか。 ③地域や社会の問題や出来事に 関心があるか。 ④人の役に立つ人間になりたい いか。 ※ R6…64%	◎ 「学びたい度」60.2%(6年1月調査) ○ 研究主任を中心に、児童の「主体的・対話的 で深い学び」を目指して、「個別最適な学び・協 働的な学び」の視点で授業改善に取り組んでい る。 ○ 基礎学力(音読・計算)の向上を図るために、 朝の時間や授業中に習熟の時間を確保してい る。 ○ 各教科の授業においてICT機器の活用を積 極的に進めている。	3.32 (3.31)	3.32 (3.29)	○ 授業に落ち着いて集中する児童や苦手なことも も諦めずに取り組む児童が増えている。 ○ 主題研究を中心に、共通の焦点化した視点をもっ て授業改善に取り組み、児童の学力向上につなげる ことができた。 ○ 授業において積極的ICTを活用できた。 ○ 個人差が大きい、学習内容の定着や思考力・ 判断力・表現力育成のための、「協働的な学び」や 「個別最適な学び」に関して継続して研修を深める必 要がある。
	<b>2 家庭学習の充実</b> 「 <b>週末宿題原則廃止と自発的学習の 推奨</b> 」 「 <b>タブレットPC活用宿題実施(水曜)</b> 」	○週末の宿題の原則廃止 ○宿題をしない児童の減少 ○タブレット持ち帰り毎週 実 施	○ 平日の宿題の提出状況がよくなっている。 ○ 週末の課題をなくすことで、読書や自分の課 題や興味関心等による主体的な宅習に取り組 む児童が増えた。 ○ タブレット持ち帰りによる宿題を、3年生以上 で毎週水曜日に実施することができた。 ○ タブレットドリルの活用により、家庭学習でも効 果的に活用できている。	3.40 (3.37)		○ 週末宿題をなくしたことで、平日の宿題の提出率 が良くなっている。ただし、週末に自発的な学習に取 り組み児童は限られているため、週末の過ごし方 について、ある程度の指針を示す必要がある。 ○ 3年生以上で毎週水曜日にタブレットでの課題を 出すことで、学力の定着を図ることができた。今後は、 家庭学習においてもAIドリル等の積極的な活用を図 る必要がある。
	<b>3 読書活動の充実</b> 「 <b>家庭読書</b> 」 「 <b>読み聞かせ</b> 」 「 <b>すきま時間の読書推進</b> 」	○「年間図書貸出冊数」 …1人平均150冊以上 ※ R6…146冊/1人	◎ 「図書貸し出し冊数」122冊/1人(1月末) ◎ 100冊以上160人(1月末) ○ 図書主任と学校図書館協力員との連携及び 委員会活動の充実により、主体的な読書活動が 定着してきた。	3.08 (3.08)		○ 貸出冊数平均については、担任や委員会等の呼 びかけにより、一定の成果を挙げているが、個人差が あるため、少ない児童への働き掛けが必要である。 ○ 家庭での読書量にも個人差があるため、メディアと のバランスを意識した取組推進も大切である。
	<b>4 学力調査等の活用</b> 「 <b>結果分析と対策の推進</b> 」 「 <b>過去問題活用</b> 」	○「全国学テ(6年)」「みや学 テ(4年)」「CRT」全教科、国・ 県・市平均超え ※ R6 全国学テ:国63%→国・県・市平均以上 算56%→国・県・市平均以下 みやテ:国・算→県平均以下 CRT:現6年のみ全国平均以下	◎ 全国学力テスト(6年) 国66%→国・県・市平均以上 算50%→国・県・市平均以下 ◎ みやぎ学力テスト(4年)(CBT形式) 国53%→県平均以上 算59%→県平均以上 ◎ 単元テスト…86点(80点を下回る学年なし) ◎ 職員研修で調査問題や結果の分析を行い、 本校の児童の課題を明確にした。	3.10 (2.93)		○ 単元テストは目標平均は超えているが、個人差が 大きい、定着の工夫が必要である。 ○ 「全国学テ(6年)や「みや学テ(4年)、CRT(全学 年)に向けて、問題分析を行い意識して授業に取り 入れたり、過去問を活用して練習に取り組みせたりす ることができた。 ○ 分析結果を授業に生かしたり、習熟を図るための 時間を確保したりするために、検討を重ね全校で共 通実践する必要がある。

知   育	5 特別支援教育の充実 「特別支援教育支援員や学校非常勤講師の有効活用」		○ 教育支援教育委員会や特別支援教育支援員からの情報を共有し、困り感のある児童の支援の仕方について組織的な対応を行っている。	3.35 (3.36)	○ 特支コーディネータを窓口し、特別支援教育支援員を配当し、支援が必要な児童に対して学習面・生活面の個別の支援を行うことができた。 ○ 学習支援ボランティア2名の方にも、低学年を中心に必要に応じて授業に入っていたり、個別の支援をしていただいた。
	6 学習のしつきの徹底 「授業」「家庭学習」		○ 年度当初に「学習の約束」を共通理解し、「1分前着席・チャイム黙想」や学習の学習用具等の継続指導を行った。 ○ 特に「話の聞き方」について継続指導を行い、少しずつ意識が高まってきている。	3.38 (2.08)	○ 「学習の約束」については、継続して指導を行い、やや学級差はあるが、児童にしっかりと定着しつつある。担当からの定期的な呼びかけも必要である。 ○ 特に「話の聞き方」は高学年を中心に一人一人がしっかりと意識できている。今後も、個別指導や継続指導で、しっかりと身に付けさせていきたい。
	7 一部教科担任制等による指導の充実 「交換授業」「各種専科」等	○「交換授業」 ・5年:家庭×図工 ・6年:社会×家庭・図工 ○「各種専科」 ・3～6年:体育・外国語、1～6年:音楽、5・6年理科	○ 専科指導や高学年の交換授業により、教員の専門性等を生かした指導により授業の充実が図られるとともに、授業準備の効率化や複数の職員で児童に関わることができている。	3.57 (3.60)	○ 一部教科担任制は学年の児童理解の充実や教材研究を深められ大変有効であった。 ○ 専科の時間に主要教科の準備ができたり、教材研究の負担が減ったりするなど、働き方改革にもつながっている。 ○ 児童を複数の職員で見ている組織体制は、今後も継続する必要がある。
	8 キャリア教育の充実 「小林キャリア教育センター」 「KSSVC」「地域人材・団体」 「学習支援ボランティア」の活用等	○南校区まちづくり協議会や南校区社会福祉協議会との連携	○ 七夕飾り作り、南小ふれあい活動、南校区社会福祉協議会の図書贈呈等の、豊かな体験活動を地域の方の協力で実施することができた。 ○ 食育の授業、高校プラスバンド部演奏会等、貴重な体験・学習をすることができた。 ○ 土・日に実施される地域の行事に参加する児童も増えてきている。(火ばさみウォーキング、グランドゴルフ、十五夜等)	3.55 (3.51)	○ 関係機関と連携することで、児童にとって大変貴重な体験活動の機会となった。今後も学習内容に合わせて、地域人材等を計画的な活用を図る必要がある。 ○ キャリア教育の視点として、学校行事に協力していただくだけでなく、地域行事に積極的に参加していくことを推進していくことも大切である。

令和7年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 2

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和7年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	--

〈徳 育〉 ○ 思いやりの心をもち、自ら実践する児童の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価※( )はR6		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
徳 育	1 望ましい生活に関する指導の充実 「時を守り、場を清め、礼を正す環境づくり」 「挨拶・返事・履物揃え」の徹底指導	○「あいさつ」「返事」「履き物そろえ」「の徹底指導	○ 担当職員を中心に「あいさつ」「返事」「履き物そろえ」の徹底を合言葉に継続して指導している。学校内だけでなく地域でもしっかりとあいさつができる児童の育成を目指している。靴箱の履き物については、各学級で係の児童が毎日点検するなどして、意識を高めている。 ○ 清掃時間は、縦割り班により、高学年は下級生に教え、低学年は上級生を見習いながら、黙々と清掃活動に取り組んでいる。 ○ 「みなみっ子の一日」を使って学校のきまりを確認し、落ち着いた学校生活が遅れるよう継続指導をしている。	3.44 (3.44)	3.44 (3.38)	○ 全体指導や個別指導により、基本的な生活習慣についてほとんどの児童が身に付けてきており、落ち着いた学校生活を送ることができていた。あいさつや廊下歩行等については、まだ個人差や学級差があり、学校全体や家庭と連携した取組をより充実させる必要がある。 ○ 生活のきまりについて、定期的な振り返る機会を設けて対策を検討するなど、より落ち着いた学校生活を目指していきたい。
	2 道徳教育・人権教育の充実 「道徳科授業」 「情報モラル」 「言語環境」	○「道徳科授業」「情報モラル教育」の充実	○ 道徳の時間の指導を計画的、系統的に実施し、道徳的実践力の育成を図っている。 ○ 「西諸人権の日」に合わせ、7月の参観日には人権に関する学習の授業参観を実施した。12月には人権週間を設定し、人権教室や人権研修を実施する。 ○ 情報モラル教育については、警察署が実施している非行防止教室を活用し、6年生を対象に指導している。	3.45 (3.23)		○ 道徳の授業については、道徳的心情の育成に向けて、工夫改善することができた。 ○ 日常生活において、思いやりのある言動が多く見られる反面、言葉遣いの乱れ等、言語環境を整える必要がある。 ○ 情報モラル、メディアリテラシーの計画的な指導が必要である。
	3 不登校・いじめ問題に関する指導の充実 「不登校・いじめ・問題行動への対応」 「関係機関との連携」	○いじめ認知解消率100%、不登校率0% ※ R6 ・いじめ認知件数49件中49件解消 ・不登校傾向4名	◎ いじめ認知件数【22件】解消件数【15件】(1月時点) ◎ 不登校児童【1件】(1月時点) ○ 毎月アンケートを実施し、問題行動の早期発見、早期解決に努め、「いじめ不登校対策会議」を開催し、全職員で共通理解を図っている。 ○ 連絡のない欠席児童や不登校傾向の児童に細やかに連絡をとり、保護者にも寄り添う姿勢で対応している。 ○ 関係機関(SSW,SS,子ども課等)とも積極的に連絡をとり、組織的な対応を取るようになっている。	3.34 (3.36)		○ 不登校やいじめ、問題行動等については、「いじめ不登校対策会議」で共通理解や対応の協議を行い、改善に向けた対応をとることができた。必要に応じて臨時にケース会議を行うなど、組織的な対応の流れを整える必要がある。 ○ 必要に応じて、関係機関(SSW, SS, S C、子ども課等)との連携を図りながら対応を進めることができた。
	4 主体的な活動の推進 「清掃」「係活動」「委員会活動」 「家庭でのお手伝い」	○係、委員会活動、ボランティア活動の充実	○ 委員会活動やボランティア活動では、自分たちでできることを考えて、主体的な取組を促している。 ○ お手伝いの意義について、集会や「学校便り」を通して児童や保護者に伝え、推進している。	3.54 (3.51)		○ どの委員会活動でも、児童が主体的に活動する姿が多く見られた。 ○ ボランティア活動に関して、呼び掛けたり称賛したりすることで、より充実させた。 ○ 家庭でのお手伝いについて、今後も家庭と連携して推進していきたい。

# 令和7年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 3

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切に、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和7年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	---

〈体 育〉	○ 健康や体力に関心をもち、自ら行動する児童の育成
-------	---------------------------

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価※( )はR6		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
体 育	<b>1 体力・運動能力の向上</b> 「体育の授業の充実」 「行事等の工夫」 「設営や施設活用の工夫」	○ 体力・運動能力テスト県平均 均超え項目89% ※ R6…87%	◎ 体力・運動能力テスト県平均超え【90%】 ○ 体力向上プランをもとに課題が見られる運動領域について、体育科授業を中心に指導を行っている。また運動しやすい環境の充実を図っている。 ○ 体育科授業での運動量の確保、持久走・なわとび月間の実施、外遊びの奨励等を行い、運動の日常化を推進させ、体力の向上を図っている。	3.49 (3.46)	3.45 (3.52)	○ 体育科授業における運動量の確保を中心に充実した指導を行うことで、運動意欲や体力の向上につながっている。 ○ 時期に応じて、全校での取組を行ったことで、運動意欲が高まり、昼休みなど多くの児童が外遊びをする姿が見られた。
	<b>2 姿勢等の指導の徹底</b> 「立腰指導の充実」 「集団行動様式」 「鉛筆の正しい握り方」	○立腰(全学年徹底)100% ○正しい鉛筆握り80% ※ R6…55%	○ 姿勢写真の各教室への掲示を行い、よい姿勢を意識させるとともに、全学年共通の号令をもとに始業、終業時の立腰指導の徹底を図っている。 ○ 集団行動については、体育主任を中心に体育や運動会等において、継続して指導を行っている。 ◎ 正しいえんぴつ握り(低学年)【74%】(12月)定期的に低学年への調査を行っているが、癖が抜けずに定着がなかなかむずかしい状況である。	3.53 (3.58)		○ 始業、終業時の立腰は全学年で徹底できているが、常時、よい姿勢を維持することは難しい状況である。 ○ 正しい姿勢(話す・書く・読む)や鉛筆の握り方等、学習中の指導事項について職員で共通認識のもと、全体指導や個別指導を継続して行うことで、定着を図っていく必要がある。
	<b>3 家庭と連携した健康教育の推進</b> 「むし歯」 「メディアコントロール」	○むし歯治療率80% ※ R6…71.6%	◎ むし歯治療率【54.2%】(1月時点) ○ う歯については、フッ化物洗口や養護教諭と連携した学級での歯みがき指導を行っている。治療勧告等も定期的に行い治療率の向上を目指している。 ○ 学校保健委員会で、児童と保護者がメディアコントロールの大切さについて考える機会を設定した。またPTAと協力して、家庭で「メディア利用のルール」作りに取り組んでもらった。	3.35 (3.34)		○ むし歯等の治療勧告については、養護教諭から定期的に配付しているが、保護者の意識が高いところとそうでないところがあるため、工夫が必要である。 ○ メディアコントロールについては、講演会を実施したり、「メディア利用ルール」作りに取り組んでもらったりして、児童や保護者の意識を高めることができた。

# 令和7年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 4

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切に、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和7年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	---

〈食育〉	○ 食に関心を持ち、自ら実践する児童の育成
------	-----------------------

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価※( )はR6		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
食  育	<b>1 「弁当の日」を核とした食に関する指導の推進</b> 「発達段階に応じた弁当作りの推進」 「弁当の日」作品展への参加 「給食委員会児童を中心とした企画」	○「生きた教材」としての学校給食の活用 ○「弁当の日」写真展への応募 ○食に関わる人に感謝する活動の工夫	○ 遠足時に「弁当の日」を設定し、発達段階に応じた取組をさせている。南小ふれあい活動の日も「弁当の日」を設定し、交流しながら楽しく食えることができた。 ○ 「弁当の日」の写真展への応募、5年児童が「味覚の授業」に参加するなど、食に関する意識を高める活動を推進している。	3.69 (3.75)	3.58 (3.59)	○ 遠足やふれあい活動に合わせて「弁当の日」を設定したり、写真展を実施したりしたことで、食への関心を高めることができた。 ○ 夏休み等、時間にゆとりがあるときに実施してはという意見もあった。
	<b>2 給食の時間の指導の充実</b> 「偏食や残食」 「マナー」 「地産地消」「よく噛んで食べる大切さの指導」	○給食の準備、喫食、片付け等に関する指導の徹底 ○「偏食」「残食」「マナー」等に関する指導の徹底  ※ R6…残食0.2～1.4%	○ 各学級で給食時間に「マナーカード」を提示し、食事前に確認することで、食事の望ましい態度やマナーの育成を図っている。 ○ 月毎に残菜調査を行い、残菜量を職員で確認し、残さず食べる意識を高めている。 ※ 残食率0.7～1.7%(1月まで)	3.39 (3.38)		○ 給食の指導の共通理解した内容について、できていない部分もあったので、足並みを揃えた実践が大切である。 ○ 偏食のある児童もいるが、学校全体の残食率は低さを保っている。
	<b>3 食物アレルギーを有する児童への適切かつ確実な対応</b> 「体制の維持及び改善」 「職員研修」	○代替食等の確実な管理及び当該児童への適切な対応	○ 食物アレルギー児童への対応について、年度当初に実技研修を行うとともに、計画的に研修を行い、全職員で安全面に配慮して対応している。 ○ 宿泊を伴う学習の際には、旅行業者や施設等との打ち合わせを徹底し、事故防止を図っている。	3.75 (3.68)		○ 食物アレルギー研修を年度当初に行い、全職員で共通理解のもと対応することができた。 ○ 職員の意識が高く、二重、三重のチェック体制になっており、きめ細やかな配慮ができています。

令和7年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 5

学校経営 ビジョン	<p>○ 南小学校の伝統を大切に、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。</p> <p>令和7年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』</p>
--------------	--

〈その他〉 ○ 服務規律の徹底と子どものための働き方改革の推進

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価※( )はR6		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
そ の 他	<p><b>1 服務規律の徹底</b> 「法令及び倫理等に反する行為ゼロの維持」</p>	<p>○法令及び倫理等に反する行為ゼロの維持 ※ R6…1件</p>	<p>○ 定期的または必要に応じて、自己チェックやコンプライアンス研修を実施し、啓発に努めている。 ○ 「個人情報の保護」を重点として、具体的なルール作り等を行い、指導や環境整備に努めている。</p>	3.45 (3.81)	3.34 (3.59)	<p>○ 職員一人一人がコンプライアンス意識を高めるために、研修や働き掛けを行い、大きな非違行為等はなかった。</p>
	<p><b>2 働き方改革の推進</b> 「業務の精選」 「SSSの積極活用」 「学習支援ボランティアの積極活用」</p>	<p>○時間外勤務の削減 ・月平均時間外勤務45時間以上の職員数削減 ※ R6 45時間以上:延べ30名 60時間以上:延べ5名</p>	<p>◎ 月平均時間外勤務45時間以上:延べ23名 (1月末まで) 60時間以上:延べ4名 (1月末まで) ○ 業務精選、適材適所、校時程の改善、会議等の精選、リフレッシュデー(金曜日)、宿題改革、一部教科担任制、学習支援ボランティア(授業・事務)・SSSの活用、フレックスタイムの利用等々の取組により実態が改善している。</p>	3.23 (3.38)		<p>○ タイムマネジメントを行いながら業務を行う職員が増え、時間外勤務削減につながっている。 ○ 業務量をできる限り平準化することや、学校と家庭、地域の役割分担の明確化等、さらに改善を図り、ゆとりをもって仕事ができる環境づくりを目指したい。</p>